

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 丸谷正八郎 副議長 野田悦子 事務局長 東山康幸
視察日時	令和4年7月28日(木) 14:00~16:00
視察先	福岡県 古賀市
概要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>①議会と福岡女学院介護大学のパートナーシップ協定を締結(2015年2月)</p> <p>地域社会の政策課題に対し適切な対処方法を模索し地域の発展に繋げることを目的に、健康づくりのための意見交換や研修会を開催する、議会の政策形成の能力向上に繋げる、ことを協力事項として、協定に基づき、学生が一般質問を見た上で議員にインタビューや議員活動のあり方について質問、学生の地域診断発表会への議員参加などの取組みを行っている。</p> <p>②災害時の議会対応について</p> <p>2017年6月 議員全員協議会で「議会版BCP」を了承、2020年3月 災害対応要綱に基づきコロナ対策会議を設置、2021年3月 基本条例改正案等賛成全員での可決と共に、具体的な行動につながる災害発生後の時系列の行動パターンや災害発生時の本会議運営マニュアル、定例会・臨時議会の議会運営に関する判断の流れを作成のほか、オンライン委員会について定めている。</p> <p>③政策推進会議について</p> <p>議会基本条例・第13条に基づき議員全員による政策立案の推進、政策テーマ発表会でのテーマを絞った研修会開催、政策推進会議で決定した案件の市長への提言・条例案提出・都市宣言などを実施。2年間の研修を経て2021年11月25日には、地球温暖化に対する議会の政策提言を市長に提出。など上記一連の取組みについて説明を受けた。</p>
所見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 古賀市は、議会改革度ランキングでは常に上位に位置しているが、2019年度に評価が下がった分析をされ、新たな取組みを続けなければ、改革が進んでいけばいるほど点数が低くなることを捉え、より進んだ改革に着手されている。 福岡女学院介護大学とのパートナーシップ協定は、議会・大学の両者にとってメリットがあり、地域の活性化に繋がる取組みとなっている。学生による地域診断の取組みに議員が参加することで新たな視点を持つことができる取組みや、学生による議員インタビューなどは、若い世代に議会や地域のことに興味を持ってもらうにはとても興味深い取組みだと感じた。 災害時の議会対応について、熊本地震の影響、新型コロナウイルス感染症の発生を受け、大災害と感染症対応要綱を策定し、迅速な対応に備えていることは大変参考になった。 政策推進会議について、市民との意見交換会で出された意見・要望や大学生との研修会で提案された意見等を議員間で整理し、テーマを決めているが、各会派の意見調整や議員個人の意見の合意を旨く取り付ける必要があり、議員同士の信頼関係が重要である。本市では意見交換会から戻っての議員間討論や政策立案まで持っていくには、幾つものハードルがあると実感した。今後、本市議員間での意見調整や討論から、何らかの形にしていく意識の醸成が必要であると議長、副議長ともに認識を一にした。 それぞれの取組みについて、担当委員長が積極的に委員会運営に取り組み、議会全体を取り纏めようと努力されている。地域により市民が期待する議会のあり方も変わり、しっかりと市民の声を聞くことが重要であると再認識した。 説明のパワーポイント資料だけでなく、議会だよりの定期版とPR版、古賀おでかけガイドマップなど多くの資料をいただき、議会だよりのカラーであるだけでなく、特集記事が組まれており読んでみたい、開いてみようと思える表紙、内容に学ぶべき点があると思った。帰阪後、他の議員とも共有できればと思う。